

3・19ストライキ宣言

郵政産業労働者ユニオンは本日、21春闘要求に対する会社の不誠実な回答に対し、全国で6局所をスト拠点とし、指名ストと合わせ15職場、26人がストライキに参加、組合員、支援の仲間とともにストライキ突入集会を行い、ストライキに入っていない職場においても早朝から支援・連帯集会を開催するなど、全国でたたかいに立ち上がった。

私たちは、2月16日、21春闘要求書を提出し、本社交渉を積み重ねてきた。とりわけ今春闘では、最高裁判決で違憲と断罪された手当や休暇をはじめ、非正規社員の処遇改善要求、正社員との格差是正要求、正社員を希望する非正規社員を5年で正社員へ登用することなど、均等待遇の実現をめざし運動を展開してきた。

さらに6年連続のベアゼロを許さず、大幅賃金引上げと大幅増員の実現、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、エッセンシャルワーカーとして社会生活を支えてきた日本郵政グループ社員に対して特別手当の支給、健康対策や福利厚生の拡充要求など、労働者の切実な要求として交渉を進めてきた。

日本郵政グループ各社は、コロナ禍による影響、低金利下の金融情勢、かんぽ生命不正営業による営業自粛などを理由に、「事業を取り巻く経営環境は厳しく、組合要求には応えられない」との対応に終始してきた。しかし、第3四半期決算では7000億円もの経常利益を生み出し、3月末の通期予想に対して既に114%の進捗を示し、さらには楽天との業務提携を発表、1500億円の出資を行い、株主には例年通りの配当を行うとしている。しかし、私たちの要求に対しては、十分に応えるだけの体力があるはずだ。社員に対して賃上げもできないなど、到底、納得できるものではない。

定期昇給の実施や、新型コロナウイルスに罹患した非正規社員に5万円の生活支援金の支給などあったものの、6年連続ベアゼロ、均等待遇要求には背を向け、年間一時金要求にも応えない会社の姿勢を強く抗議する。

我われは、満身の怒りをもって3・19ストライキを貫徹し、一日の行動を展開していく。21春闘をさらに強め、職場から要求実現の運動をたたかい抜いていこう。大幅賃上げ獲得、非正規差別を許さない職場づくりを全国の組合員、支援の仲間とともに、大きく進めていくことを決意する。

2021年3月19日

郵政産業労働者ユニオン中央闘争委員会